東京工業大学
公文書室だより
No. 2（2017 年 3 月 31 日発行）

平成 28（2016）年度の出来事から

公文書室長　広瀬茂久

「記録は残っていない」と政府高官が答弁する。「そんなはず ないだろう」と国民は怒る。いま問題となっている“森友学園”への国有地払い下げに関連して，価格の交渉経過を示す文書の提出を求められて冒頭のように答弁したのだ。確かに評価額 9 億 6500 万円の土地を 1 億 3400 万円で売却したのには何か裏があるのではないか，だからこそ正式な記録を残さなかったのではないかという疑念がわく。しかし「違法性は無い」の一点張りで納得のいく説明がなされない。このような問題が繰り返されてきたことの反省のもと，2011 年に公文書管理法が施行された。この法律では，「国や独立行政法人等は適切に文書を作成・保存し自らの活動を現在及び将来の国民に説明する責務を負う」とされているが，今回の事案は，このような公文書管理法の趣旨がまだよく現場に浸透していないことを物語っている。「他山の石」とすべし。

◆今号では，この 1 年を振り返って印象深かった以下のことについて，個人的な心象を交えて，報告します：1) 新メンバーによるパワーアップ，2) 留学生のお孫さんの訪問，3) 中堅職員研修の一コマ，4) 全史料協関東部会の定例研究会，5) 雑誌『日本歴史』への寄稿，6) ノーベル賞関連の展示。

1. 新メンバーによるパワーアップ

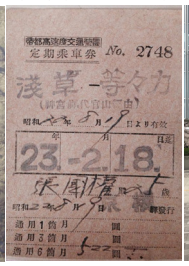
2016 年 4 月から酒井正好が博物館のスタッフとして，公文書室の運営にも積極的に関わっています。酒井は定年後の再雇用ですので，現役時代に築いた人脈と経験を生かして資史料の収集・整理に取り組むかたわら，趣味のカメラを活かして，学内の様子や学内から望む富士山の様子などを「今月の一枚」として提供しています（百年記念館 1F の南角に展示）。

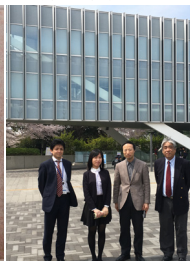
2. 留学生のお孫さんの来訪

終戦の頃を本学で過ごした中国からの留学生のお孫さんの訪問を受けました。祖父の張国権（Zhang Guo Quan）さんは亡くなっているとのことでしたが，昭和 22（1947）年 9 月 29 日に本学の紡織学科を卒業した方です。来日後は等々力にあった大東亜学寮に入り，東亜学校で日本語の予備教育を受けた（昭和 16 年 12 月 13 日修了）後，本学に入学。同じ寮からキャンパスのあった大岡山❶まで通い，卒業後もそのまま浅草の職場？まで通ったのでしょうか，定期券❷が残されています。帰国後は広東省広州市の要職に招請されたのを断り，中学校の教師をされたとのことでした。

孫娘の張卉（チョウ キ，Zhang Hui ❸）さんは，弁護士で日本語がとても上手な方でした。祖父の影響もあって日本語に興味があったのでしょう。会話はもちろん，読み書きも上級でした。日本企業を顧客に日本語で仕事をしている，しかも今回が初来日と聞いて，驚きました。中国の語学教育には学ぶべきところが多いのではないでしょうか。祖父が大切に保存していた正門の写真❶が孫娘をして「いつか，私もこの地を訪れ，祖父が歩いた道を歩いてみたい」と思わせるのですから写真には不思議な力があります。訪問日は 4 月 6 日（水）でしたが，幸い桜もまだ綺麗でした。本館前の桜の植樹は昭和 25（1950）年ですから，張国権さんが学生だった頃はまだなかったことになります。今回の訪問の窓口と世話役を務めて下さった教務課の方々❸（藤原則雄グループ長，田中 昇 課長）をも交えて学食で昼食をすませ，別れました。午後は祖父の寮があった等々力駅周辺を歩いてみるとのことでした。

孫娘の張卉さんは，祖父の同級生にも会って話を聞きたい





❶ 1947 年当時の正門　❷ 1948 年の定期 ❸藤原 張 広瀬 田中

と希望していましたがかないませんでした。祖父が大切に保存していたというガリ版刷りの同級生名簿を寄贈頂きました。張国権さんにとっては，帰国後は同級会・同窓会への参加もままならなかったでしょうから，写真や名簿などは単なる思い出の品という以上に大切なものだったに違いありません。それらをスマートフォンに収めて，孫が 69 年ぶりに祖父の思い出の地を訪ねる；まるで映画の撮影に付き合っているような半日でした。当時の留学生の置かれた状況は以下の論文でうかがい知ることができます：田中剛，「日本敗戦前後の中国人留日学生政策」，京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター研究報告，pp. 235–263, 2013；韓 立冬，「東亜学校の中国人留学生予備教育」，年報地域文化研究 **16**, 45–73, 2013。

3. 中堅職員研修の一コマ

公文書管理法では研修が義務付けられています（第 32 条）。これまで公文書室では，各部局を訪問し文書管理の担当者と対面で話す形で法人文書の管理に関する助言やお願いをしてきました。この方式はしばらく続ける方針ですが，今年度は念願かなって，人事課労務室人材育成グループ担当

の“中堅職員研修”の一コマを貰って，公文書室と博物館を見学した後，本学の歴史と公文書について説明する機会を得ましたので，本学における文書の管理と保存について概説した後，次のようなお願いをさせていただきました：（1）刊行物・チラシ等の印刷物は，その都度「資史料館」にお送りいただくか，各事務室に届けてあるプラスチック製縦型の書類 Box へ。（2）倉庫等の古い書類を廃棄するときは，資史料館（内線 3347）に声かけを！ 読者の皆さんも，職員・学生を問わず，資史料の収集にご協力をお願いします。

公文書室が独自の研修会を開くのが一般的かも知れませんが，事務の方々をこれ以上忙しくしては，ヤマト運輸のように，あちこちから悲鳴が聞こえてきそうで，変則的な研修を試みている次第です。参考までに，本年度の中堅職員研修の参加者は，27 名でした。

4. 全史料協 関東部会の定例研究会

昨秋，全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）関東部会から一通の Email が届きました。差出人は清水善仁運営委員（法政大学大原社会問題研究所准教授）で，本学における公文書管理に関する取り組みを協会員に紹介して欲しいという依頼でした。私たちの公文書室を多くの方々に知ってもらい，かつ専門家のアドバイスを貰う良い機会にもなるので快諾。2017 年 2 月 3 日(金)に百年記念館のフェライト記念会議室❹で第 289 回定例研究会が行われました。講演の部では，私が「公文書室設置の経過と現在の活動」について紹介し，阿児雄之特任講師が「手島精一関連コレクション：実体資料と文書を包括して扱う意義」についてアーキビスト向けの専門的な話をしました。講演内容は，全史料協関東部会の機関誌『アーキビスト』No. 88（2017 年 9 月）に掲載予定です。休憩後の施設見学も好評でした（参加者 40 名強を一纏めで行いましたので多少窮屈だったかもしれません）。後日，星野宏幹 会長（川崎市公文書館長）から頂いた礼状で，「参加者からは，公文書室設置の背景や実際の業務等を具体的に教えていただいてよくわかった，大学の公文書館が担う責任の重大さに気がついた，現場の見学で理解が進んだとの声が届いており，当会としても多くのものを得ることができました」といっていただき，準備にあたったスタッフ一同うれしく思った次第です。

世話人の清水先生が所属されている法政大学と本学は遠縁の関係にあります。本学の社会人アカデミーと法政大学の社会学部のルーツをたどると，後述（3 頁 右下）の協調会・中央労働学園で交わるのです。

❹

5. 雑誌『日本歴史』への寄稿

これも昨秋，日本歴史学会から予期せぬ封書が届きました。展示会等の案内にしては「宛名が手書きというのは変だな」と思って開けてみると原稿依頼でした。他に締め切りを過ぎた原稿を抱えていましたが，そちらに不義理して，引き受けることにしました。日本歴史学会編集の月刊誌『日本歴史』は 10,000 部発行されていますので，その中の「文書館・史料館めぐり」欄に載れば宣伝効果抜群だからです。読者の印象に残るようにと，本学誕生のスイッチは“廃藩置県”によって押されたという話も盛り込んでありますので，2017 年 3 月 23 日に発行される 4 月号をご覧ください。似たストーリーは蔵前修工会々報第 109 号(2017.2.1)にも寄稿し，増補版を資史料館の Web 頁上の刊行物（よもやま話欄）に「夕闇の田町で研鑽を積み日本を支えた人たちに捧ぐ」と題して載せておきましたので合わせてご参照ください。http://www.cent.titech.ac.jp/DL/DL_Publications_Archives/chat09.pdf

6. 展示会（大隅良典栄誉教授のノーベル賞）

10 月 3 日の発表以来，広報・社会連携課と博物館（公文書室を含む）が協力して，大隅教授に関する情報発信を行うかたわら，新聞の号外を含めた関連資料の収集に努めています。2 月～3 月にはメダルを中心とする展示会を開催しました。メダルの表裏をよく見るとどのように作られているかが推定できますので，4 月以降のすずかけ台での展示，ないしは少し先になりますが大岡山での常設展示で推理してみて下さい（Autophagy の仕組み❺と共に）。

❺ 生きることは，古くなったものを壊し，新しいものに作りかえるという新陳代謝の連続です。通常は，新しい素材は栄養素として取り込みますが，飢餓状態ではそうはいきません。この時 働くのがオートファジーという「自食」の仕組みで，自らの細胞の一部を壊してまで生存に必須な新陳代謝用の素材を得るのです。このようにオートファジーは当初は危機管理的な仕組みと考えられていましたが，研究が進むにつれ，細胞内にたまった不要物などを分解し再利用する役割も担っていることが分かってきました。

平成 28 年度（2016）に受け入れた特定歴史公文書のリスト

法人文書ファイル名	作成又は取得者
平成 17 年度学校基本調査	総務部評価・広報課 広報・社会連携係
平成 18 年度収入・支出概算要求に関する文書	東京工業大学財務部 主計課予算係
清華大学との合同プログラム 平成 17 年度	学務部留学生課企画交流係
赴日予備教育 2005 年度	研究協力部国際事業課 国際事業第 2 係
昭和 60 年度国立学校施設実態調査報告書	施設部企画課企画掛
東日本大震災（文科省）関係 平成 22-23 年度	施設総合企画課総務・契約 GP
教練實施状況報告 昭和 4 年度	東京工業大学兼附属工学専門部 / 附属工業教員養成所配属将校陸軍工兵中佐 松岡尚道
教練實施状況報告 昭和 5 年度	東京工業大学兼附属工学専門部 / 附属工業教員養成所配属将校陸軍工兵中佐 松岡尚道
刊行物委員会記録 [1949-1960]	[研究協力課]* 刊行物委員会
コース委員会 1949-1953	[コース委員会]
中央労働学園関係資料 1946	[東京工業大学]

法人文書ファイル名	作成又は取得者
大学経営ニ関スル調査資料 第一輯 [昭和] 四年七月	東京工業大学
大学経営ニ関スル調査資料 第二輯 [昭和] 五年五月	東京工業大学
大学経営ニ関スル調査資料 第三輯 [昭和] 五年五月	東京工業大学
研究事項ニ関スル参考資料 [1928-1933]	[東京工業大学]
昇格ニ関スル資料 [1921]	[東京工業大学]
建築設備委員会記録 [1946-1951]	[建築設備委員会]
臨時工師養成部生徒募集等ニ関スル件 昭和 13 年	[東京工業大学]
附属予備部 **、臨時工業技術員養成所 入学関係書類綴 昭和 18 年	[教務課]
日誌 昭和 7 年 3 月 東京工業大学学生課	学生課
日誌 昭和 9 年 5 月以降	学生課
日誌 昭和 12 年 6 月	[学生課]

* カッコ内は推測，** 予備部（3 年間）では 留学生に日本語と基礎科目を習得させ，修了生を学部に編入させていた。

新規収蔵の特定歴史公文書等の解題

上表のように 22 件の法人文書を特定歴史公文書として公文書室に収蔵しました。その内，6 件は比較的新しく，残り 16 件は昭和 24（1949）年以前のものです。比較的新しいものでは “赴日留学生予備教育” が目に留まりました。私自身もこのプログラムに参加し 1990 年の 7 ～ 8 月にかけて，約 2 か月間，中国東北部の吉林省長春に滞在し，日本への留学が決まった人たちに日本語による予備教育をおこなったからです。政府間協定に基づく事業ですから，支給されたパスポートは一種の外交官パスポートでした。当時の見聞録を Web 頁上の刊行物（よもやま話，http://www.cent.titech.ac.jp/Publication_Archives/pg693.html）に載せておきます。

古いものでは，中央労働学園が気になる資料かと思います。本学の前身である東京職工学校（後に東京工業学校，東京高等工業学校と改称）には本科の他に，工業教育を普及するための工業教員養成所と現場の技術者のレベルアップを図るための工業補習学校（夜間部）がありました。夜間部は紆余曲折を経て，渋沢栄一らの協調会そして戦後は一時的に中央労働学園の傘下に入り，1951 年に再び田町キャンパスに戻ることになりますが，この流れの一コマを伝えるのが今回の文書綴りです。本学の創設者である手島精一とゴットフリート・ワグネル（Gottfried Wagener, [gɔtfriːt vaːgɛnɐ̯]）の生い立ちから書き起こし，夜間部の変遷を紹介した『とっておきメモ帳 9』も用意しましたので資史料館の Web 頁の刊行物をご覧ください。（室長 広瀬茂久）

公文書室 業務日誌（抄）

日時 年	月	日	業務内容
平成 28 (2016)	5	10	国立大学図書館職員（外国雑誌センター館会議メンバー）10 名見学
		20	～ 7 月 26 日 ◆各部局と公文書の移管について協議及び担当者への研修
		12	卒業生（昭和 40 年経営工学科卒）2 名見学
	6	9	～ 10 日 ◆全国公文書館長会議出席
	7	20	第 3 回関東地区国立大学文書館情報交換会参加（於：東京外国語大学）
		20	～ 22 日 ◆公文書管理研修 II 受講
	8	5	国立大学図書館協議会東地区研修企画委員他 6 名見学
		29	～ 9 月 2 日 ◆アーカイブス研修 I 受講
	9	13	旧リベラルアーツセンター作成資料を受贈
		14	公文書管理研修 I 受講
	11	29	平成 28 年度東京工業大学中堅職員研修で「東京工業大学の歴史，公文書について」の講義及び見学（受講者 27 名）
平成 29 (2017)	1	17	総務課すずかけ台倉庫保存書類の確認
	2	3	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会定例研究会参加（会場校，30 名見学）
		6	～ 4 月 4 日 ◆大隅良典栄誉教授 ノーベル賞メダル公開記念展示
		17	京都大学総合博物館所属教員来訪（調査及び見学）
		27	平成 28 年度第 1 回 博物館資史料等審査部会開催
	3	15	総務課すずかけ台倉庫から整理のため昭和 30 年代以前の文書を本館 3 階 336 号室へ搬入

寄贈資料一覧 & 資史料館からのお知らせ

◆ 下記資料を寄贈いただきました（2016 年 4 月から 2017 年 3 月受領分）。

* 本学教員・名誉教授

寄贈者	資料名
平田賢一	秋山豊 遺文・追悼集
奥野美果	浅草文庫 第 54 号（昭和 3 年）他
鈴木富司	アジア学生技術会議報告書（1957 年 8 月 東京工業大学学友会編）他
高瀬昭三	蔵前俳句会百周年記念句集くらまえ（IV）
太田代哲男	太田代譜総次郎氏東京工業専修学校卒業証書 他
吉岡道子	岩垂家・喜田村家文書
張卉	昭和 22 年の卒業證書（張国権）
酒井正好	東京工業大学創立百年記念式典実施要領

寄贈者	資料名
石戸良治 *	石戸良治教授退職記念：第三の可能性を求めて
松尾 孝 *	田中良平先生追悼文集
小澤正基 *	小澤正基先生 退職記念誌 他
西原明法 *	CRADLE 運営委員会 工大連携 2009.4 ～ 東京工業大学電気工学課程の案内 1975 理数学生応援プロジェクト報告書 他
坂井悦郎 *	坂井悦郎先生 退職記念講演会 講演要旨集 他
梶 雅範 *	Early Responses to the Periodic System

◆ 公文書室入口（本館 3 階奥）にパンフレット棚を設置し，「発掘！東工大の研究と社会貢献」，「資史料館 とっておき メモ帳」を配布しています。百年記念館 1 階と合わせてご利用下さい。

東京工業大学公文書室だより　第 2 号　2017 年 3 月 31 日発行
編集・発行　東京工業大学博物館資史料館部門公文書室
152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1, E3-12　TEL 03-5734-3347
E-mail centshiryou@jim.titech.ac.jp　URL http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html